

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.11

憲政資料室の新規公開資料から

蔵書の新たな探索方法を創る

—NDLのOCRテキスト化—

スペイン語でつながる子どもの本—スペインと中南米から



国立 国会 図書館 月報

NO. 739
NOVEMBER 2022

CONTENTS

1 「百鳥図」

—雪斎の画、ほとんど諸侯の技量に非ざるなり
今月の二冊 国立国会図書館の蔵書から

6 憲政資料室の新規公開資料から

15 蔵書の新たな探索方法を創る

—NDLのOCRテキスト化—

20 スペイン語でつながる子どももの本

—スペインと中南米から

27 館内スコープ

支部図書館職員研修への道のり

28 本屋にない本

『東アフリカ・インド洋島嶼地域ザンジバルに
おけるダガー漁と人々の暮らし』

29

NDL Topics



表紙：「朝寒」 杉浦非水 画
『三越』19巻11号 1929.11 三
越 25cm <請求記号 雑 23-23イ>

「百鳥図」 一雪斎の画、ほとんど諸侯の技量に非ざるなり

武田和也



冬に見られる鳥、クロガモ (上) と
シノリガモ (左) (第12軸)

百鳥図

石類道人 (増山雪斎) [画] 自筆 12軸
紙高 25.2-40.8cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1287020>

今年もはや11月、冬の渡り鳥が多く飛来し始める季節となりました。今回紹介するのは、現在の分類で120種類の鳥類が描かれている増山正賢の「百鳥図」(12軸)です。

正賢は、長島藩2万石(現・三重県桑名市)を治めた譜代大名で、宝暦4(1754)年12月、江戸で生まれました。⁽²⁾父の死去により安永5(1776)年5月に家督を相続、⁽³⁾第5代藩主となりましたが、藩主在任中は、領地が木曾三川の河口に位置することで度々発生する洪水による年貢未収に悩まされ、⁽⁴⁾その治世の大半で、儉約や給与削減等による財政改善に取り組むこととなります。⁽⁵⁾役職手当での財政補填も意図し大坂加番を4度(安永7(1778)年・天明元(1781)年・天明3(1783)年・寛政元(1789)年)務めたほか、自筆の規則を示して家来達の引き締めも図っています。⁽⁷⁾

文化面では、殊に絵を描くことに優れ、その腕前は「高い人格者の筆墨」「名高き御妙手」「絶妙」「ほとんど諸侯の技量ではない」と評されました。⁽⁸⁾寛政8(1796)年7月には、將軍・徳川家斉に花鳥画・人物画・木芙蓉猫の3点の書画を献上しています。⁽⁹⁾享和元(1801)年7月、病を理由に隠居願を提出、家督を息子の正寧に譲って雪斎と改名、⁽¹⁰⁾外桜田の上屋敷から隠居後のために整備した巣鴨の下屋敷に移り住みます。⁽¹¹⁾



(上) ハッカチョウ (第1軸)
(右) プンチョウ (第8軸) 雄の顔の色が雌と比べてやや紅色であることを記している。



「増山正賢画像」(春木南湖筆・自賛、文化14 (1817) 年)
三重県 編『先賢遺芳』三重県 1915
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1015231/28> (モノクロ画像)
※棺に納められた鶴髻衣(白地に黒縁で鶴の羽毛で織った衣を思わせる服)を着用している。

ところが、文化元(1804)年7月、「不慎之儀」があつたとして幕府の処分を受け、裏築地の下屋敷に転居、文化7(1810)年6月まで謹慎することになります。処分が明けた後も同居敷に住み続けますが、文政2(1819)年1月、66歳で亡くなります。棺には筆・紙や鶴髻衣等が納められました(1)。

「百鳥図」は、干支(己巳)文化6(1809)年、癸酉・文化10(1813)年、戊寅・文化15(1818)年)、署名「石顛道人」、印章「君選」「灌園逸叟」の使用例から(2)(3)、謹慎をしていた頃から手足の麻痺を発症した文政元(1818)年頃までに描かれたと思われる。この頃は、最も旺盛に作画に取り組み、写生に傾倒し始めた時期とされており、小型生物の図譜「虫多帖」(文化4・9(1807・12)年 東京国立博物館所蔵)、草花の写生図巻「草花写生図」(文化8(1811)年カ 東洋文庫所蔵)がほぼ同時期の作品ですが、「百鳥図」とは以下のような共通点を見て取れます(2)(3)。

「虫多帖」「草花写生図」では、一つの個体を様々な角度から記録しようとしていることや、その細部を細密に観察し正確に描写していることが指摘されます。「百鳥図」でも、ハッカチョウ(2)・翡翠・黄鶴鶴等では複数の姿勢が描かれ、羽の表裏・脚といった細かな部位に

も焦点を当てており、文鳥(3)等では雌雄を描き分ける等、類似の特徴が見られます。また、「虫多帖」では、百科事典「和漢三才図会」や本草学書「本草綱目」を参照して対象の同定を行い、写生日とともに得られた知見を書き加えている事が知られています。「百鳥図」でも、写生日に加え、鶺鴒・田雲雀・水鶏(4)・石燕(5)において、両書や漢和辞典「和玉篇」を参照しての書込みを確認できます。

さらに、「虫多帖」では、地膽には奥医師で本草学者の栗本丹洲の鑑定を受けた旨の注記(6)がありますが、「百鳥図」にも、石燕(5)に多喜安(幕府・医学館督事・多紀元簡(安長)または元胤(安元))の了承を得て薬品会(展覧会)で写生した旨の記載がある等、幕府の医師と交流があったことが作品から垣間見えます。実際、享和2(1802)年9月に医学館で開かれた薬品会で正賢は、医学館の教授方を務めた小野蘭山と初めて出会っており、文化12(1815)年の同会では正賢が描いた「異形禽類」が展示される等、正賢の医学館への出入りが確認できるほか、同年、正賢所蔵の「花卉図巻」(明代の画家・周之冕による)を奥医師・桂川甫賢が模写させている(早稲田大学図書館所蔵)等、その交流は他の資料からも認めることができます。

クイナ（第9軸）「和漢三才図会」を参照してクイナと比定している。

正月廿日寫生
此鳥未詳漢名
和漢三才圖會
水雞俗名久比
奈



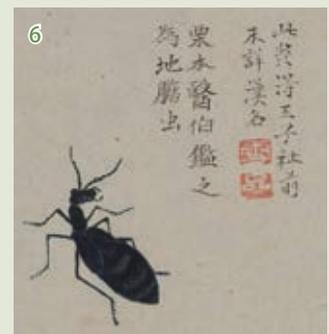
4



5

(右) ヒクイドリ (第12軸)

(左) ハリオアマツバメ (第12軸) 「本草綱目」の「石燕」の項目の「集解」(産地・性質等の注釈)を参照している。



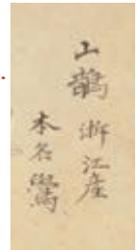
「虫豸帖」(東京国立博物館所蔵)よりツチハンミョウ
出典: https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-10085?locale=ja



『攝津名所圖會』より「孔雀茶屋」秋里籬 著述、竹原春朝齋 圖畫 森本太助〔ほか4名〕 寛政8-10〔1796-1798〕 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563460/59>
大田南畝は、享和元（1801）年に大坂・四天王寺を参詣した折、孔雀茶屋を訪れ、キンケイ・ハッカシ・マナヅル・コウライキジ・クジャクがいたと記している。（『蘆の若葉』享和元年4月8日条（浜田義一郎〔ほか〕編『大田南畝全集』第8巻 岩波書店 1986 pp.168-169<請求記号KG248-18>）



(右) サンジャク（第12軸） 中国の「浙江産」とある。
(上) カナリア（第8軸） 黄色・斑・白色の3種類あり、養禽家が「極黄」「黄黒斑」「白」と名付けていたことが記される。
(右) エトウヒルカ（エトピリカ）（第12軸）



採取・捕獲地が、江戸やその近郊（巣鴨・深川・王子・岩槻）から千葉・愛知・三重・福岡や八丈島と遠方にまでわたっているのは「虫多帖」と共通しますが、「百鳥図」では、孔雀茶屋（7）・花鳥茶屋で外国の鳥を鑑賞できるようになった時代も反映し、山鶴（8）・白頭翁等の東アジア産や、秦吉丁・花鏡鸚鵡・火鷄（5）等の東南アジア・南アジア産をはじめ、英国で改良された孔雀鳩やアフリカ原産の金有雀（9）も描かれています。そして、この時期は、ロシアが日本の北方地域に進出してきたため、幕府は文化2（1805）年に目付・遠山景晋らの、文化4（1807）年には堅田藩主（滋賀県大津市）で若年寄の堀田正敦らの調査隊を西蝦夷地に、文化5（1808）年には最上徳内・間宮林蔵らを樺太に派遣しています。文化6（1809）年に西蝦夷地から樺太を分離し北蝦夷地としたことを踏まえると、「西蝦夷カラフト嶋」の海辺で捉えられ堅田侯（堀田正敦）が所蔵しているエトピリカ（10）はこの頃に捕獲されたものと思われ、当時の日露間の緊張の歴史を現在に伝えるものとも言えるでしょう。

さて、「百鳥図」にはクロガモ・シノリガモ（1ページ目）・大麻之古（11）・コクマルガラス（12）等、冬の鳥も多数描かれています。この冬、正賢が描いた絵と見比べながら野鳥観察をしてみるのはいかがでしょうか。

(右) オオマシコ (第8軸)
(下) コクマルガラス (第12軸)



1 「珍禽奇獸異鳥」電子展示会「描かれた動物・植物 江戸時代の博物誌」
<https://www.ndl.go.jp/nature/cha3/index.html>

2 「伊勢長島増山家譜」東京大学史料編纂所蔵 <https://cloiimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/400/4175/725/0061>

3 「増山河内守年譜」イェール大学バイネッキ貴重書・手稿図書館所蔵 (以下「年譜」) 安永5 (1776) 年5月30日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706470\[158\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706470[158]) ([]はコマ数)。4分冊。

4 「年譜」では安永7 (1778)・天明2 (1782)・天明4 (1784)・天明6 (1786)・天明7 (1787)・天明8 (1788)・寛政10 (1798) 年の被害が確認できる。

5 寛政3 (1791) 年10月3日、儉約・給与減が示され(「年譜」同日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[22-29\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[22-29]))、寛政7 (1795) 年12月20日(「年譜」同日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[116-127\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[116-127]))、寛政10(1798)年1月29日、寛政12(1800)年11月30日と延長されている(「年譜」同日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[283-288\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[283-288]))。

6 「年譜」天明8 (1788) 年7月19日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706471\[280-282\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706471[280-282])。松尾美恵子「大坂加番制について」『徳川林政史研究所研究紀要』昭和49年度 1975.3<Z18-133>等、一連の同氏の研究参照。

7 「年譜」寛政10 (1798) 年2月1日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[173-177\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[173-177])

8 田能村竹田「山中入饒舌」『日本古典文学大系』第96 (近世随想集) 岩波書店 1965 p.536<918-N6852>、池田玄斎「増山侯の事」(酒田市立光丘文庫蔵「弘采録」三十五) <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100175815/viewer/2493>、大窪詩仏「長島侯之國賦此奉送」(神戸大学附属図書館蔵「詩聖堂詩集」二編之三) <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100353575/viewer/47>、「文政9(1826)年6月20日条」五弓久文 著『文恭公実録 卷之3・4』甬書山景雄 1881 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/781720/10>

9 「年譜」寛政8 (1796) 年7月26日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[136-141\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[136-141])

10 「年譜」享和元 (1801) 年7月3日条・29日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[328-331,338-339\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[328-331,338-339])

11 寛政10 (1798) 年2月25日に入手し(「年譜」同日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[181-182\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[181-182]))、寛政13 (1801) 年1月15日から工事している(「年譜」同日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472\[293\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706472[293]))。

12 「江戸幕府日記」文化元 (1804) 年7月2日条 国立公文書館蔵 [https://www.digital.archives.go.jp/img/1224184\[11-12\]](https://www.digital.archives.go.jp/img/1224184[11-12])

13 「年譜」文化元 年7月29日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473\[97\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473[97])

14 「年譜」文化7 (1810) 年6月14日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473\[163-164\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473[163-164])。同年6月11日の徳川家重五十回忌時の赦免と類推されている(杉本竜「【総説】増山家と雪斎—長島・大坂・果嶋—」増山雪斎【作】、桑名市博物館編『増山雪斎 大名の美意識 特別企画展』桑名市博物館 2007<KC16-J5>)。將軍家の法事の際、寛永寺・増上寺が受刑者等の親族からの赦免願を纏めて寺社奉行に提出、その写しを諸奉行内で回覧し最終的に老中が恩赦を決める制度があった(平松義郎「恩赦」『近世刑事訴訟法の研究』創文社 1960 pp.1023-1055<327.6-

H488k>)。文化4 (1807) 年徳川綱吉百回忌時の「大赦調書」<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2572517/139>に雪斎の名を確認できる一方、徳川家重五十回忌時の「赦帳写」<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2549236>には見られないが、老中の屋敷で赦免を言い渡されたことからその可能性は高いだろう。

15 「年譜」文政2 (1819) 年1月26日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473\[314-316\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473[314-316])。29日に幕府に届けるとある。

16 「年譜」文政2年2月1日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473\[320\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473[320])

17 「主要作品解説」「主要印章」増山雪斎【画】『増山雪斎展 没後200年記念』三重県立美術館 2019<KC16-M299>

18 「年譜」文政元 (1818) 年9月23日条 [https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473\[302-303\]](https://collections.library.yale.edu/catalog/16706473[302-303])

19 村上敬「増山雪斎 逸話と作品」前掲注17『増山雪斎展 没後200年記念』、同「増山雪斎筆 草花写生図」『国華』126巻5号 通号1502号 2020.12<Z11-165>

20 ColBase https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/A-10085

21 東洋文庫所蔵画像データベース <http://124.33.215.236/gazou/201310/show201310saisyokukaiga.php?stidir=四-F-3&booktitle=草花寫生圖&mergefile=all.jpg>

22 山口泰弘「増山雪斎『虫豸帖』『ひる・ういんど 三重県立美術館ニューズ』51 1996<Z72-G28>、前掲注19『国華』126巻5号 通号1502号

23 「小野蘭山公働日記」[2] 享和2 (1802) 年9月29日条 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2580148/25>

24 釈敬順「十方庵遊歴雜記」三編 江戸叢書刊行会編『江戸叢書』巻の5 名著刊行会 1964 pp.32-34<081.7-E22-E(s)>

25 桂川甫賢花卉図(古典籍総合データベース) https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/bunko08/bunko08_j0091/index.html、前掲注19『国華』126巻5号 通号1502号

26 当時、様々な野鳥が江戸近郊で見られた。岩崎常正著「武江産物志」[2] 文政7 (1824) 年序 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2557805/18>

27 山口泰弘「増山雪斎における彩色と水墨の意味——二つの孔雀図を通して」前掲注14『増山雪斎 大名の美意識 特別企画展』

28 島谷良吉著『最上徳内』吉川弘文館 1989<GK86-E19>、鈴木道男「若年寄の蝦夷地視察 堀田正敦の『観文禽譜』(6)」『国際文化研究科論集』8号 2000<Z22-B94>、藤田覚著『遠山景晋』吉川弘文館 2022<GK199-M2854>

29 蝦夷地から堀田のもとに折々鳥が届いた事は、鈴木道男「化政期の内政・外交資料としての鳥類図鑑 堀田正敦の『観文禽譜』(8)」『国際文化研究科論集』11号 2003<Z22-B94>参照。

○参考文献
細川博昭著『江戸時代に描かれた鳥たち』ソフトバンククリエイティブ 2012<RA567-J211>
細川博昭著『江戸の鳥類図譜 大名、学者、本草画家が描いた日本の鳥たち』秀和システム 2020<RA567-M85>

※<>内は当館請求記号
※ URLの最終アクセス日：令和4年8月29日

憲政資料室の新規公開資料から

国立国会図書館は、幕末・維新期から現代までの政治家、官僚、軍人らが所有していた個人文書（憲政資料約四二万点）を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規に公開した資料をご紹介します。

憲政資料は主にご子孫などからの寄贈によって収集した資料から構成されており、整理や目録作成を行った上で一般に公開します。この記事により、政治史をはじめ様々な分野の調査・研究を支える貴重なコレクションの魅力の一端を味わっていただければ幸いです。

憲政資料室のご案内（東京本館 本館4階）

幕末・維新期から現代にいたる政治家・官僚・軍人などが所蔵していた書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。

憲政資料室の利用方法、所蔵資料の概要については、国立国会図書館ホームページ「憲政資料室」(<https://www.ndl.go.jp/tokyo/constitutional/index.html>)、今回紹介する資料を含む憲政資料の概要については、リサーチ・ナビ「憲政資料（憲政資料室）」(<https://mnavi.ndl.go.jp/kensei/jp/index.html>)をご覧ください。



憲政資料室

しゅんぽう
春畝公遺墨（伊藤博文書簡（榎村正直宛巻子本））（憲政資料室収集文書371）

（二巻三通）、令和四年一月公開

明治二（一八六九）年九月四日、開明派と目されていた兵部大輔大村益次郎は、帰省を兼ね京阪地方巡視のため京都に宿泊していましたが、そこを攘夷派に襲われます。幸いにも一命は取り止め、河原町の長州藩邸で治療を受けていました。この榎村正直宛の伊藤博文書簡はその時期のもので、榎村は当時、京都府の権大参事（副知事）の職にあり、凶徒の探索にあたっていました。実は、大村襲撃の噂は既にあり、大村と親しい木戸孝允も心配して榎村に彼の身辺を警護するよう伝えていました。

この事件で伊藤博文も大きな衝撃を受けました。この年六月に実現した版籍奉還を強く主張していた彼は、そのために士族層から敵視され、攘夷派が多く集まる京阪地方の兵庫県知事を辞して、東京で大蔵少輔に就任したばかりでした。このように、新政府にまだまだ不平士族を統御するだけの力がないだけでなく、政府自身が「議論区々まごまごに涉まかり「朝令夕変」しているため、「為国尽力する者なきに至る」状態になっている、と伊藤は嘆いています。維新前後の殺伐とした政情と、伊藤の強い決意がこの書簡から伝わってきます。

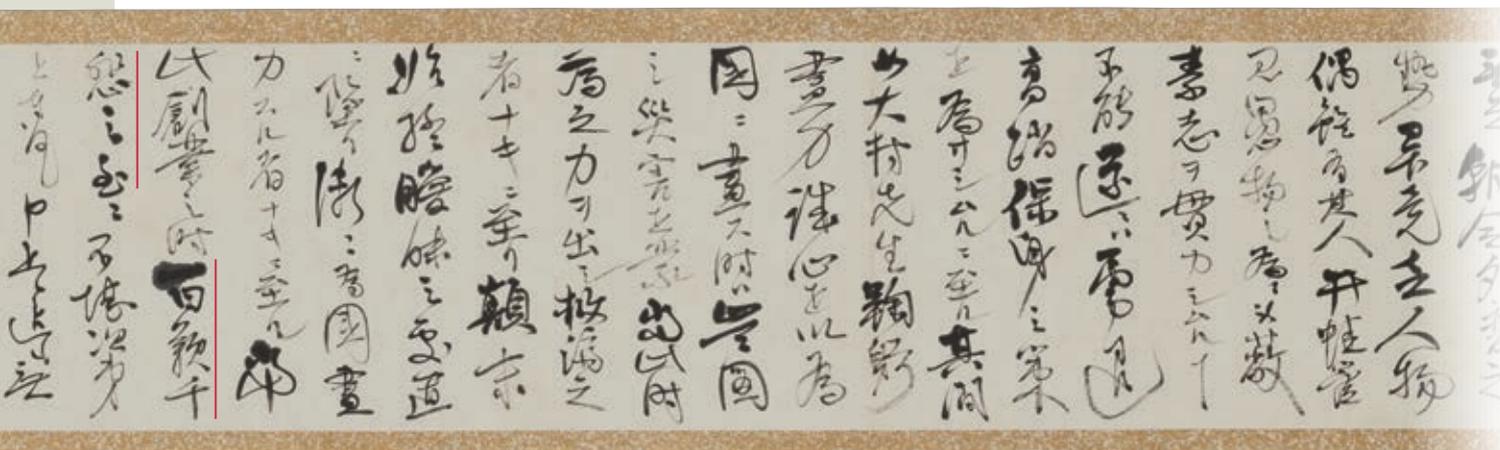
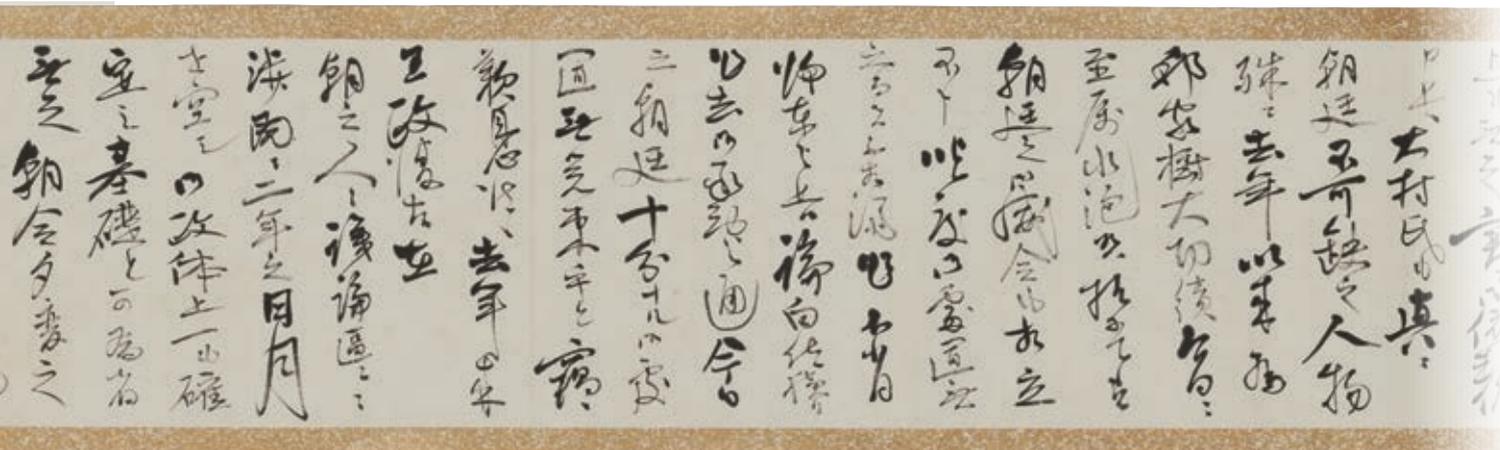


写真1 伊藤博文書簡 榎村正直宛 [明治2年] 9月29日 <憲政資料室収集文書371-1>
大村の遭難について“百歎千怨の至”(↓)と強い口調で嘆いています。

榎村正直 (1834-1896)

天保5(1834)年、山口生まれ。幕末は木戸孝允の下で国事に奔走する。明治元(1868)年9月議政官史官試補に採用され、すぐに京都府出仕を命じられる。以後、明治14(1881)年に元老院議員に就任するまで京都府のトップを務める。東京遷都後は産業も衰退しつつあった京都であるが、榎村時代には産業、教育に力が注がれ、伝統を保持しながら近代都市への脱皮を図る。「都をどり」も彼の創設にかかる。行政裁判所長官、貴族院議員。男爵。

肖像写真の出典：『関西教育』(1) 関西教育社 1898年10月<雑59-29>



写真3 当用日記 大正2年11月2日、3日 <宇都宮太郎関係文書 日記8>

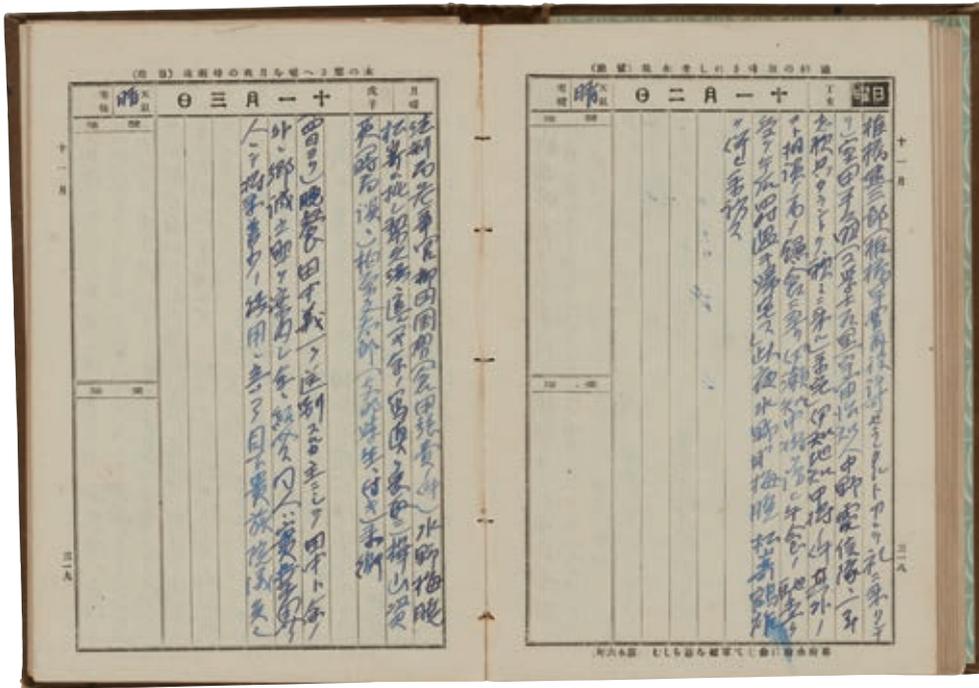


写真2 松崎鶴雄(1867-1949)
肖像写真の出典:柔父会編『松崎先生還暦祝賀記念文集』柔父会 1936<726-99>

うつのみやたろう 宇都宮太郎関係文書

(六)三三三三 令和四年五月公開

宇都宮太郎は元々アジアへの関心を有し、陸軍で外国事情を扱う参謀本部第二部長や朝鮮軍司令官等にも就任していました。このたび寄贈された文書(書架に並べると一三メートルをこえます)には、アジアに関する多くの関連書類や書簡が残されています。その一例として、松崎鶴雄(写真2)の手紙(大正二(一九一三年)一月一日)があります。彼は、明治四二(一九〇九)年以降、湖南省長沙に留まって漢学を修め、後年には南滿州鉄道株式会社大連図書館(満鉄図書館)の職員として資料収集などで活躍した人物です。大正二(一九一三)年の宇都宮の日記をひも解きますと関連した記載が目につきます。一〇月二六日に水野梅暁(日中間で活動した僧侶で、宇

都宮と面識があり、松崎に長沙留学を勧める)が松崎の事を宇都宮に話し、一月一日には水野が松崎の旅費を受け取り、同日二日に宇都宮と松崎が面会し、翌日には黎元洪(宇都宮と交流のある中華民国副総統)都宮と交流のある中華民国副総統)へ贈る肖像写真を水野経由で託しています(写真3)。松崎は手紙で、中国の漢口で袁世凱(中華民国大總統)に呼ばれて北京に向かう黎元洪になんとか会えたことや、当地の噂などを伝えています(写真4)。ほかにも、松崎からの絵葉書(宇都宮太郎関係文書書簡七六一―二、書簡一五九七)や報告書「支那湖南省基督教近状」(大正四(一九一五)年五月二日)(宇都宮太郎関係文書書類三三一―五三)も文書の中に残されています。

大正二年十二月十一日

宇都宮閣下

十二月八日漢口に入港後、處處黎元洪の
北京へ出發の途程に於て中々面會中絶し
内外人とも謝絶し、念知中國興業會社
理事一行より總領事館へ二通にテ面會
申込、謝絶し、日本商人側より申込
ハ無効ト在彼故、武昌米國聖公會漢
三ノ文華大學教授、千二ク氏が見送
ニ赴き、傍ト同行シテ十五分間計り黎ノ
漢書室ニテ面會見尊意ハ確ト申侍、
侯、甚皆行カ、餘カケ居り候故、
内河奥ハ一時私ノ手許ニ留置シ、歸
任上再會暢談スベシトノ事ニテ其意
中ナリトシテ話シ置カ

○張勳天津ニ在リテ安全ニ生活ノ方法
相立ケ、或ハ早晚要地ニ立ケ申ベキカ
ト事ニルセ

○黎ノ北京行ニ種々ノ意見有之、日本
人及英米宣教師並、漢字新聞記
者等ト過す、黎ノ北行ハ北京ヲ押シ
陸居カセラレ、段祺瑞ヲ後任トシ、長
江上下ニ威壓ヲ加フルヲメナリト申ルモ

大正二年十二月十一日

宇都宮閣下

向來細河内へ参り、以テ并
報ヲ申上、長江水涸シテ
漢口より長沙迄ハ半在、後
津浦道ニ申サス、數日ノ後、長沙
ニ入り申ベシ

何モ漢口ニ於テ探訪候、校
概ヲ奉告候、且具

大正二年十二月十一日 松崎鶴雄 拜

再、長沙より、中文と連中との、
署名明記仕候、面白カラヌ事、情
者も、何卒、本上、封筒ノ、内、宛
如何ヤ、或、湖南、長沙、日本郵
館、為、封文トシテ、以下、命、示、奉

写真4 松崎鶴雄書簡 宇都宮太郎宛 大正2年12月11日 <宇都宮太郎関係文書 書簡761-1>
書簡の冒頭と末尾。

宇都宮太郎 (1861-1922)

文久元(1861)年佐賀生まれ。陸軍軍人。参謀本部勤務、日露戦争中は在イギリス公使館付武官で明石工作を支援。帰国後は、参謀本部第2部長、第4師団長等を経て、朝鮮軍司令官、大正8(1919)年には大将となり、翌年、軍事参議官に就任。大正11(1922)年死去。国会議員の宇都宮徳馬は太郎の子息。

肖像写真の出典：写真(宇都宮太郎) 大正2年1月11日
<宇都宮太郎関係文書2089>



諸橋襄関係文書

（一九点 令和三年八月公開）

諸橋襄関係文書は、大正から昭和期にかけて内務省に勤めた諸橋襄が所蔵していた一九点の資料です。在職した枢密院に関係する資料や、枢密院議長であった山県有朋に関連した資料を多く含みます。

写真5の資料は、三井合名会社の相談役である益田孝（まいたただか）から山県宛てた、対華二十一か条要求に関連する書簡をまとめたものです。大正四（一九一五）年二月二十六日の書簡（写真6）では、日本政府から南満州鉄道株式会社（満鉄）に対し、「貨車全部旅客用ニ供スル為メ何時ニ而も提供シ得ラル、様用意セヨ：」（↑1）と要請があった、と伝えています。旅客を運ぶためにいつでも貨車全部を提供できるように用意せよ、というこの連絡は、二十一か条要求の交渉難航とともに中国国内での緊張が高まったことを受けて、現地にいる自国民を退避させる可能性を見越した指示だと考えられます。益田は、この書簡の冒頭に「今日大連より左之電信有之：」（↑2）とあるとおり、大連にいる三井物

産の社員から送られる報告を受信することができました。その他の書簡には、北京、長春、天津等の各支店からの電信をそのまま添付したのもあり（写真7）、各地の情勢や政府間交渉の状況が克明に記されています。

さて、なぜ満鉄への政府の指示の情報を、民間人である益田が山県に伝えているのでしょうか。実は、当時の加藤高明外相（第二次大隈内閣）は、山県ら元老の影響から独立した外交を志向したため、慣例であった元老への外交文書の回覧をとりやめていました。山県は、二十一か条要求をめぐる外交過程について、以前のように政府から十分な情報を得ることができなかつたのです。

この書簡が書かれた時、山県は古稀庵（こきあん）、益田は掃雲台（そううんだい）と称する私邸を小田原に隣接して構えており、文字通りの隣人として、茶道等の趣味を通じた親交がありました。この時期の山県の政治的な力を支えていた、人脈や情報網を垣間見ることが出来る資料です。



写真5 〔対華21か条要求関係益田孝書簡綴〕 <諸橋襄関係文書15>

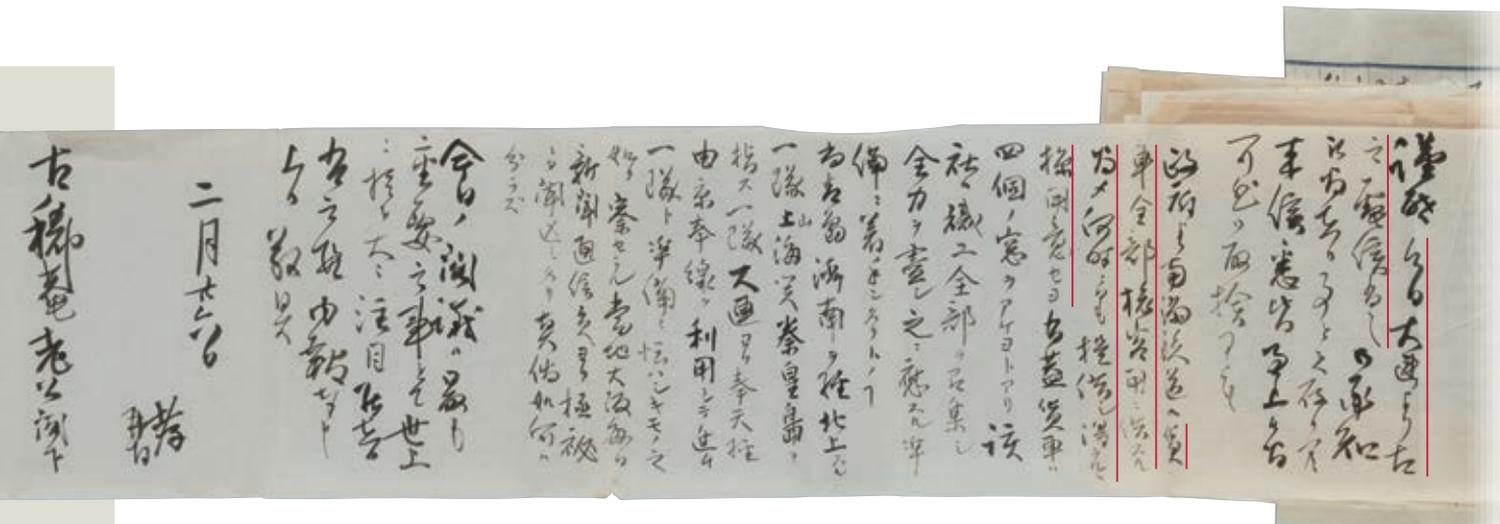


写真6 益田孝書簡 山県有朋宛〔大正4年〕2月26日 <諸橋襄関係文書15-1>

↑
1

↑
2

最早戦争スル方得策ト思フ
森恪

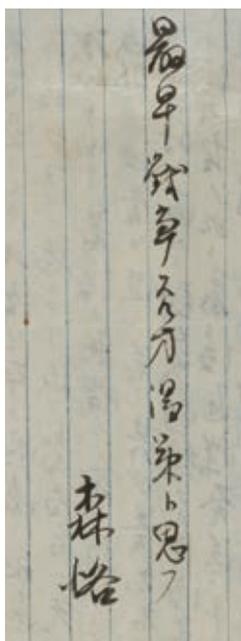


写真7 益田孝書簡 山県有朋宛〔大正4年〕5月5日 <諸橋襄関係文書15-4>の別紙

5月5日の益田の書簡に添付された、天津支店長の森恪（つとむ）による電報です。3か月以上にわたって交渉が難航するにつれ、大陸駐在の軍勢力を背景とする開戦論を含めて、日本国内では強硬な主張が高まりを見せました。

益田孝 (1848-1938)
 嘉永元(1848)年新潟生まれ。創設期の三井物産を支え、三池鉱山の落札を成功させるなど、三井財閥の重鎮として活躍した実業家。茶人としても高名で、「鈍翁」と称した。
 肖像写真の出典：「近代日本人の肖像」(https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/331)



諸橋襄 (1899-1999)
 明治32(1899)年新潟生まれ。東京帝国大学を経て大正12(1923)年以降、内務官僚として全国各地に勤務し、行政裁判所評定官、枢密院書記官等を歴任する。退官後は帝京大学法学部長を務めた。
 肖像写真の出典：『貴族院要覧 昭和21年12月増訂 丙』貴族院事務局 1947 < BZ-1-1 >





写真8 写真（汪中華民國行政院院長一行招待午餐會記念撮影） 昭和16年6月21日 <本多熊太郎関係文書208>
汪兆銘一行と。1列目右から4人目が本多で、8人目が汪主席です。

本多熊太郎関係文書

（四八〇点 令和四年三月公開）

このたび寄贈を受けた本多熊太郎関係文書は、明治から昭和戦前期にかけて外交官を務めた本多熊太郎が旧蔵していた、政治家、外交官からの書簡、書類、写真などで構成されています。第二次近衛文麿内閣の松岡洋右外相期に任命された特命全權

レヂット」ヲ設定スルコト」(1↓)を切り出し、汪が「感激ニ堪エス」(2↓)と応じた様子が、克明に綴られています。この訪日の結果、両政府は共同宣言を発するとともに、日本政府から南京国民政府に三億円の借款が供与されることとなりました。

大使在任中（昭和一五（一九四〇）年一月から一六（一九四一）年一二月まで）の資料が多く残され、特に汪兆銘率いる南京国民政府（中華民国）との外交の様子を伝える記録は貴重です。

昭和一六年六月が太平洋戦争開戦の直前で、日米間の緊張感が高まっていた時期であることを踏まえ、と、汪政権との友好関係を見せようとする日本側の思惑があったとも考えられます。

昭和一六（一九四一）年六月二六日、汪主席の訪日（写真8）が実現しました。「汪主席訪日会谈要録（写真9）」は、この時に行われた近衛首相、松岡外相らとの各会談の記録です。例えば六月二〇日の会談では、松岡から汪に対し「三億円ノ」ク

会谈の最後は、本多の話題に及んでいます。松岡は「(本多)大使ハ自分ノ唯一ノ外交顧問ニシテ自分ト同一人ト考ヘ万事相談セラレ度シ」と汪に伝えており、本多に対する信任ぶりがうかがえます。

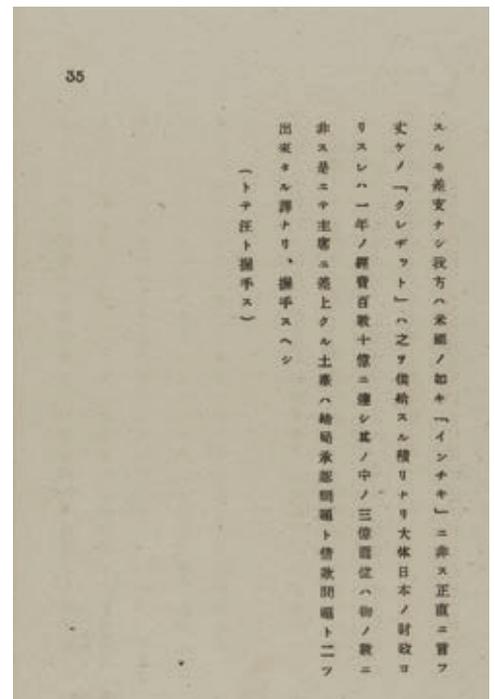
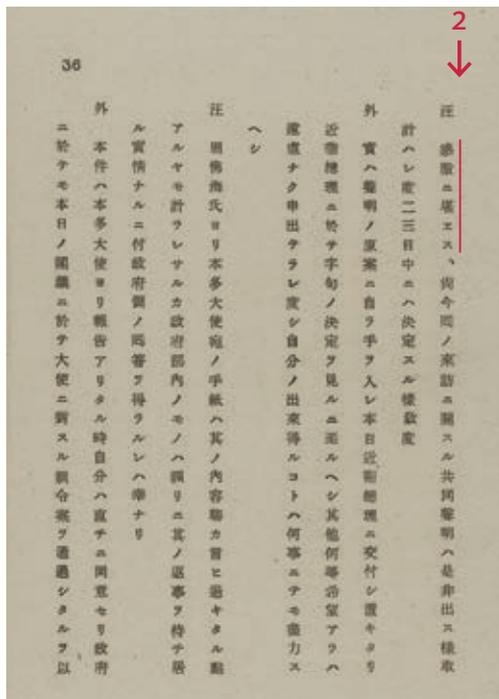
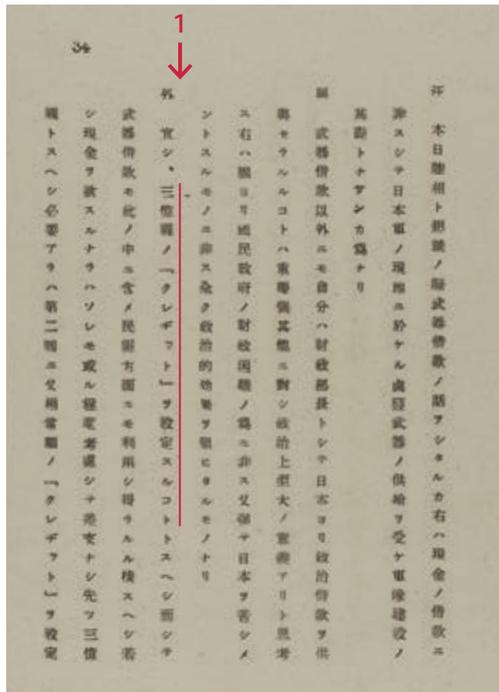


写真9 汪主席訪日会談要録
昭和16年6月 <本多熊太郎関係文書67-8>

発言者は、「外」が松岡洋右外相、「汪」は汪兆銘主席を示しています。

本多熊太郎 (1874-1948)

明治7(1874)年和歌山生まれ。明治28(1895)年に外務省書記生試験に合格。明治34(1901)年に小村寿太郎外相の秘書官に任ぜられ、明治38(1905)年に日露戦争後のポーツマス講和会議に随行。その後も外交官としてハルビン、イギリス、スイス、オーストリア、ドイツなどに赴任した。大正15(1926)年に免官となるが、昭和15(1940)年に松岡洋右外相により南京国民政府(中華民国)の特命全権大使に任命され、汪兆銘政権との外交に当たった。昭和23(1948)年死去。

肖像写真の出典：本多熊太郎肖像 大正12年6月 <本多熊太郎関係文書196>



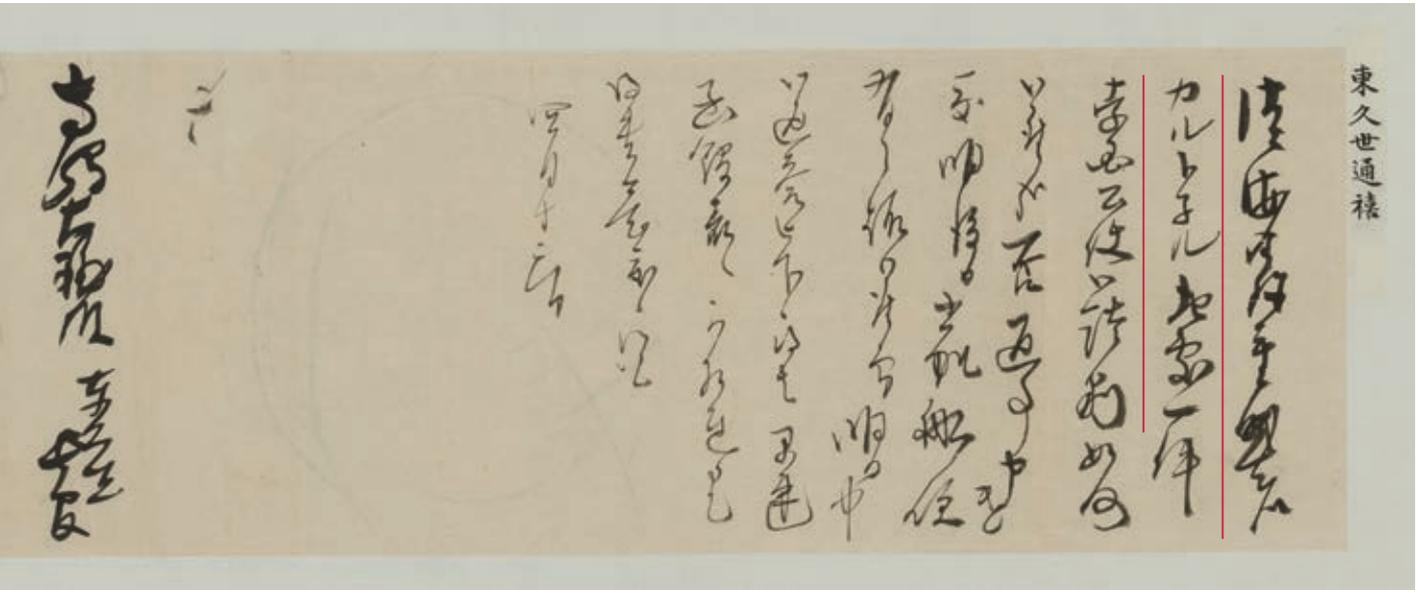


写真10 東久世通禧書簡 寺島宗則宛 [明治] 4月13日 <憲政資料室収集文書370-9>

明治朝名士書〔明治初期外交関係書簡卷子本〕
(憲政資料室収集文書370)

(二巻(二一通)、令和四年二月公開)

勝海舟や小松帯刀など、幕末から明治にかけて活躍した人々の書簡を収録した巻物です。外国や外国人との関わりのもとに生じた案件について記されています。

写真10はそのうちの一通で、明治三(一八七〇)年ごろのものと思われ、東久世通禧(ひがしくぜみちとみ) 開拓長官が寺島宗則(外務大輔)宛てて、「カルトネル地処一件 李国公使御談判」(↓)について尋ねています。「李国」とはプロイセン、「カルトネル」とは箱館(後の函館)で活動したプロイセンの貿易商ガルトネル(R. Gaertner)です。

明治二(一八六九)年、ガルトネルは、箱館駐在の外交官である弟の協力のもと、榎本武揚ら旧幕府軍のいわゆる「蝦夷島政府」との間で、開墾を目的として居留地外の広大な地所を事実上半永久的に租借する契約を結びました。箱館戦争終結後、新設された開拓使は外務省へ状況を報告し、明治政府も諸外国との関係上この一件を重くみて、地所を取り返すべく契約解消交渉に動きました。外務省と北ドイツ連邦代理公

使、開拓使とガルトネルの二方面で交渉が進められた結果、明治三(一八七〇)年一月にガルトネルへ多額の補償金を支払うことで解決に至りました。

東久世の書簡は、開拓長官の立場から「カルトネル地処一件」に対処する過程で、外交筋へも注意を向けたいものと見受けられます。



東久世通禧 (1833-1912)

天保4(1833)年京都生まれ。幕末に尊攘派の公卿として三条実美らとともに七卿落ちを経験。明治維新後は外国事務総督、開拓長官、侍従長、元老院副議長、貴族院副議長、枢密院副議長などを歴任。伯爵。明治45(1912)年死去。

肖像写真の出典:「近代日本人の肖像」(https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/175)

※プロイセンを中心とする連邦で、1867年成立。1871年にドイツ帝国。



蔵書の新たな探索方法を創る

—NDLのOCRテキスト化—

2021年度、国立国会図書館（以下、NDL）は、OCR（光学式文字認識）に関する2つの大きなプロジェクトを進めました。

一つは、「デジタル化資料のOCRテキスト化」事業です。国立国会図書館デジタルコレクションに収録されたほぼ全てのデジタル化資料247万点（2億2300万画像）から、既存のOCRサービスをNDLの資料に最適化したものを用いて全文テキストデータを作成しました（テキスト化については月報733（2022年5月）号で紹介しています）。

もう一つは、今後、NDLがデジタル化していく資料のテキストデータ作成のための「OCR処理プログラム研究開発」事業です。日本語OCRの精度向上に向けた調査研究を進め、オープンソースとして公開可能なOCR処理プログラムそのものの研究開発を行いました。これにより、NDLのデジタル化資料に最適化したOCR処理プログラム「NDLOCR」が開発・リリースされました。

本特集記事では、まず、NDLが開発したOCR処理プログラムである「NDLOCR」について紹介します。続いて、「デジタル化資料のOCRテキスト化」事業で作成された全文テキストデータの活用法の一つとして、新たな本の探索方法を生み出す実験サービス「NDL Ngram Viewer」を紹介します。膨大な本の中に埋もれている知識を呼び出せるのだという醍醐味を、ぜひ、味わっていただければと思います。

（電子情報部 電子情報企画課 次世代システム開発研究室）





NDLOCR 開発しました!

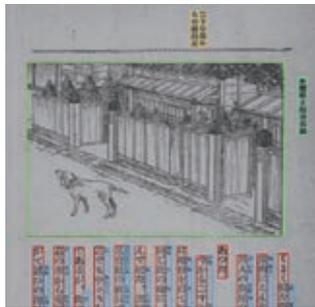
(OCR 処理プログラム)

(公開日：令和 4 年 4 月 25 日)

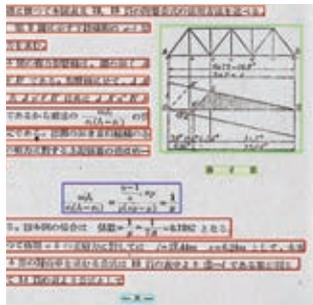
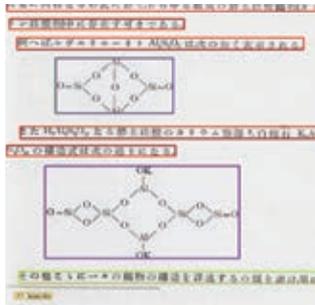


OCR は、画像に含まれる文字を読み取ってテキストデータを抽出する技術です。具体的には、資料の画像に対して、まず紙面の構成要素（レイアウト）を認識し、レイアウト内に書かれた文字を認識してテキストデータに変換していきます。

実際のレイアウト認識結果の例



レイアウト要素としては、例えば「注釈」、「図版」、「化学式」、「数式」といったものがあります。



左上：山崎麓 [著] 『鷹雄と海老太郎 教育小説』科外教育叢書刊行会 1917 (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/953615/8>)

右上：東京文理科大学 編『東京文理科大学・東京高等師範学校・第一臨時教員養成所一覽 昭和4年度』東京文理科大学 1930 (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1448261/143>)

左下：ヴェルナドスキー 著 高橋純一 訂訳『地球化学』内田老鶴圃 1933 (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1051755/89>)

右下：橋梁研究会 編『鋼橋設計諸表の解説並設計例 昭和18年9月』水産社 1943 (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1058615/9>)

資料画像をプログラムに読み込ませて……

テキスト化!



吾輩は猫である。
名前はまだ無い……

参謀本部編纂の地図を又線開いて見てもなかるう、と思つたけれども……

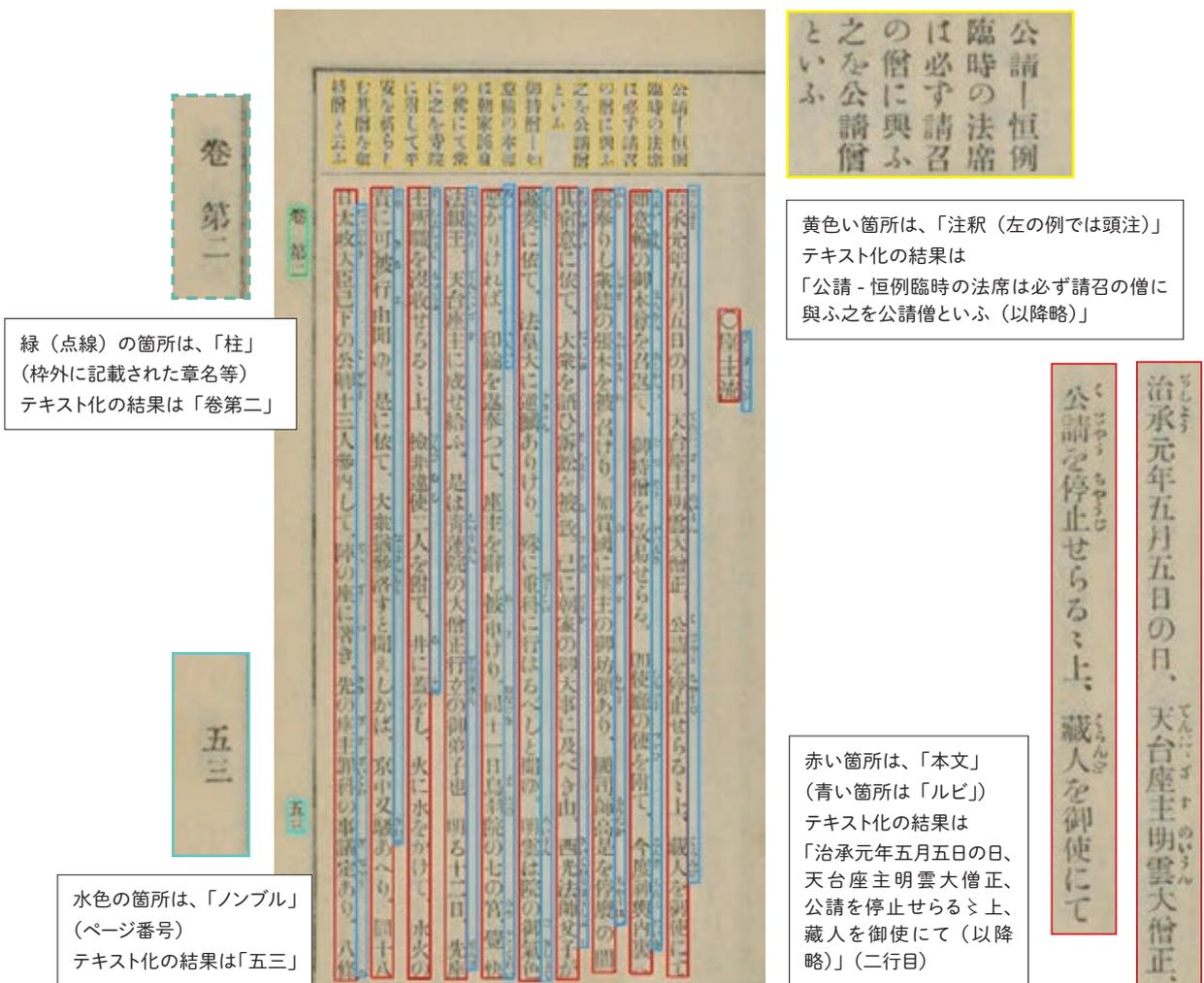
OCR 豆知識

長尾真元国立国会図書館長・元京都大学総長は、京都大学在職時の1964年から1967年までの間に手書き文字認識の研究を行っており、この成果は当時の郵政省における初期の郵便番号の自動読み取り装置に応用されました。

どんな風にテキスト化できるのかを実際にご紹介します！

小型で比較的複雑なレイアウトの例として、『平家物語』を題材に、OCRが見分けた紙面の要素ごとに色分けしています。

(永井一孝 [校] 『平家物語』有朋堂書店 1937 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1223268/51>)



「NDLOCR」はオープンソースで公開中！！

あなたのお手元のデジタル画像も、テキストデータにしてみませんか？

- ・どなたでも無料で自由に使えます（チュートリアル等ありますが、環境構築には一定の技術スキルが必要です）。
- ・明治期の資料のような古い活字の資料もテキスト化できます。
- ・テキスト化したい紙面の要素を指定して、カスタマイズできます（たとえば「柱」と「ルビ」は要らないけれど「ページ番号」はテキスト化したい、といったニーズに対応しています）。
- ・活用にご関心のある方は以下の URL をご覧ください。

https://github.com/ndl-lab/ndlocr_cli

NDL Ngram Viewer 開発しました!

(公開日：令和4年5月31日)

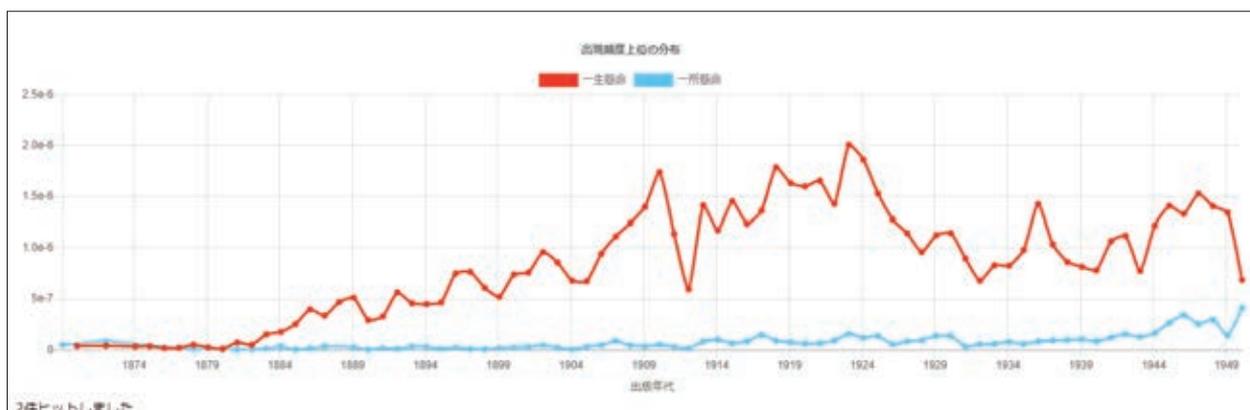
資料を探していて、こんなお悩みはありませんか？

- ・この言葉、むかし流行語だったらしいけれど、いつ頃の本に多く登場するのかな？
 - ・調べたいことは決まったけれど、正確にどんな言葉で検索したらいいかわからないよ……
- 「～を含む単語」のように少しあいまいなキーワードで検索したいな。

NDL Ngram Viewer は、著作権保護期間が満了したデジタル化済み図書資料を対象（2022年9月現在）に、OCR テキストデータについて、出版年代ごとに単語の出現頻度を可視化できるサービスです¹。

実際に使ってみましょう。

下の例は「一生懸命」と「一所懸命」の出版年代の時系列ごとの出現頻度を比較した結果です。NDL Ngram Viewer 上で見ると、1883（明治16）年頃から、「一生懸命」の方が多くなっていった傾向もうかがえます。でも、「一所懸命」も根強く残っていますね。



<https://lab.ndl.go.jp/ngramviewer/?keyword=一生懸命%2F一所懸命>

¹ 現時点の NDL Ngram Viewer は、著作権保護期間が満了した図書のみを対象としているため、1950 年代以降に出版された資料については、年代ごとの母集団と出現頻度のいずれも小さくなる点と、あくまで OCR が読み取った結果の文字列であり誤りも含まれる点に注意してご利用ください。

※ p.16、18 の題字の周縁デザインおよび p.16 下部のイラストの出典：いらすとや <https://www.irasutoya.com/>

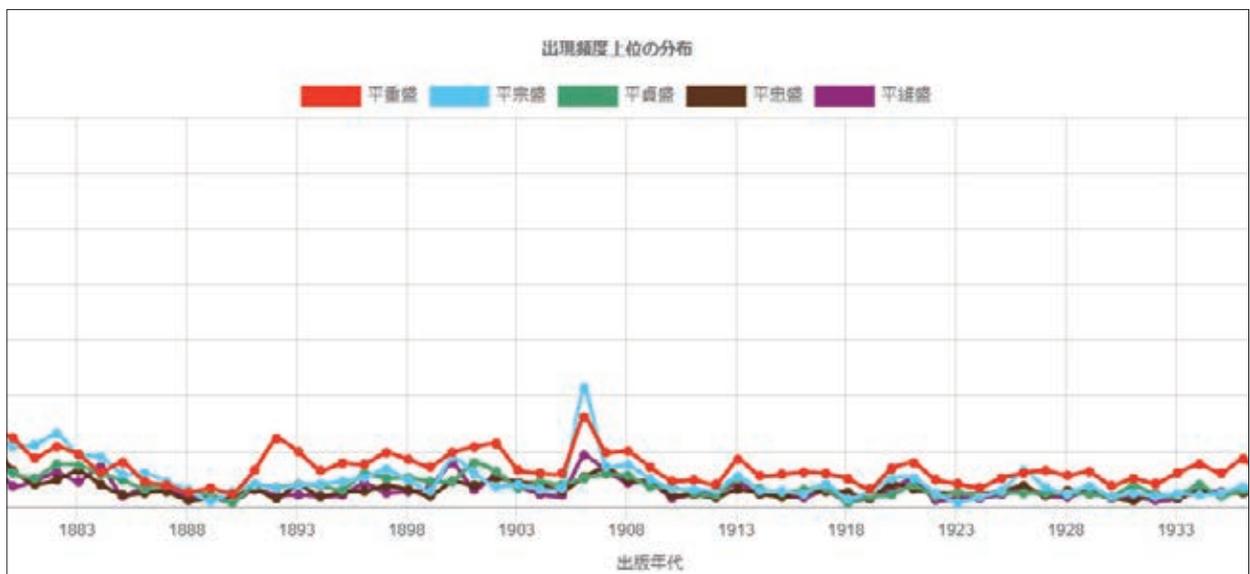
ほかにもこんな使い方ができます！

「きのこ」と「たけのこ」の年代ごとの登場頻度を比較したい。
→「きのこ/たけのこ」で検索。

さらに、一定のルールに則り文字（テキスト）の並びを指定する方法として「正規表現」と呼ばれるパターンを用いた高度な検索方法にも対応しています。

例えば、次のようなことができます。

「平○盛」のように、平家一門で名前が「盛」で終わる人物を調べたい
→「平・盛」で検索（「平」と「盛」の間に任意の一文字（.）が含まれる単語を検索する正規表現）
「温泉」で終わる単語（箱根温泉や登別温泉）にどんなものが多いかを調べたい
→「.*温泉」で検索（「温泉」の前に任意の一文字（.）が任意の回数（*）含まれる単語を検索する正規表現）



「平・盛」で検索した結果 (<https://lab.ndl.go.jp/ngramviewer/?keyword=平・盛>)

今後に向けて（全文テキストデータの活用）

2022年3月、NDLの実験システム「次世代デジタルライブラリー」に、著作権保護期間が満了した図書資料28万件の全文テキストデータを投入し、本文検索を実現しました。この反響は大きく、図書館のレファレンス業務でも活用されるなど、本文検索の有用性が確認できたことから、2022年12月に新しくリニューアルする国立国会図書館デジタルコレクションにおいて、247万点全ての全文テキストデータを用いた本文検索サービスの提供開始を予定しています。

また、2023年3月までには、市場にアクセシブルな電子書籍等が流通している場合などを除き、視覚障害者等用データ送信サービスを通じて、全文テキストデータを視覚障害者等の方や図書館等に提供する予定です。

データの使い道について

こんなアイデアもいただいています。

「NDL Ngram Viewerの検索結果で、関連するキーワード同士の出現頻度を簡単に足し合わせることができると嬉しい」

「資料が出版された時代ごとにテキストデータを抽出してそれぞれの区切りごとの単語の関係を分析する歴史分析ができるのではないかと」

— Japan Open Science Summit 2022

「国立国会図書館デジタル化資料データ（画像・テキスト）の使い道：90分アイデアソン」（2022年6月10日（金）開催）にて頂いた意見より
<https://lab.ndl.go.jp/event/joss2022/>



スペイン語でつながる 子どもの本 — スペインと 中南米から

Children's Books in Spanish from Spain and Latin America



*青い色の国出身の作家・画家
の作品を展示しています

入場
無料

展示会「スペイン語でつながる子どもの本—スペインと中南米から」では、国際子ども図書館の所蔵資料から、スペイン語で書かれた子どもの本とその翻訳書を展示します。

スペイン語を公用語とする国はスペインだけでなく、大西洋を隔てた中南米にも数多く存在します。この展示会では、スペイン語圏の国々出身の作家・画家たち、中でも、現地で子どもの本の出版が増え始めた1980年代以降に活躍してきた作家や画家に焦点を当て、その多彩で表現豊かな作品の数々を紹介します。

2022年

10月4日(火) ~ 12月25日(日)

会期が変更になる場合があります。最新情報については、公式ホームページなどでご確認ください。

【会場】 国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム

【開館時間】 9時30分～17時 【休館日】 毎週月曜日、国民の祝日・休日、毎月第3水曜日(資料整理休館日)

<https://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/tenji2022-03.html>

※作家・画家名の日本語よみは、翻訳家の宇野和美氏にご協力をいただきました。書籍の表記とは異なる場合があります。
※展示会で取り上げる作品の中から一部を紹介します。

スペイン出身の作家・画家

スペインの子どもの本をめぐる状況

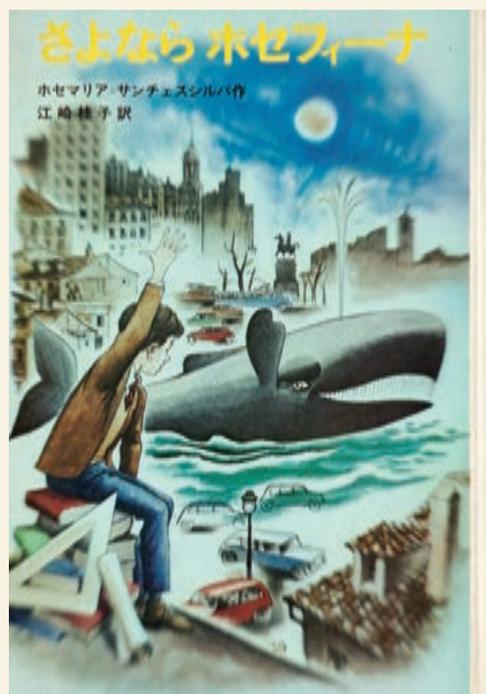
スペインでは、1930年代の内戦後、フランコ総統による独裁政権下で検閲が行われ、出版が制限されていました。1970年代のフランコ政権の終焉とともに民主化が進み、検閲などの制約が廃止されると、子どもの本の刊行も盛んになりました。児童文学の分野では、1980年代以降、歴史ものやファンタジーなど様々なジャンルの作品が生まれました。社会の現実をとらえた作品や、思春期の子どもたちの内面を描いた作品も数多く見られます。絵本の分野でも、近年は、中小の出版社が競って個性的な絵本を手がけています。



スペイン

スペインの現代児童文学において先駆的役割を果たした作家の一人です。孤児院を転々とするなど、厳しい子ども時代を過ごしました。人生のすばらしさを描いた作品を数多く手がけ、1968年に、スペインの作家として初めて国際アンデルセン賞作家賞を受賞しました。

ホセ・マリア・サンチェス・シルバ



『さよならホセフィーナ』
ホセマリア・サンチェスシルバ作
江崎桂子訳 ロレンソ・ゴニ 絵
学研 1967【Y7-845】

※【 】内は国立国会図書館請求記号。本稿に掲載するものはすべて国際子ども図書館所蔵。

スペイン出身の作家・画家（続き）

長きにわたって児童書の絵を手がけ、スペイン国内外で数々の賞を受賞し、国際アンデルセン賞画家賞の候補にも2度選ばれた画家です。初期の作品は淡い水彩が特徴的ですが、1990年代半ばからは、はっきりとした主線と鮮やかな色遣いの作品が見られます。

アスン・バルソラ



『かちんこちんのムニア』
アスン・バルソラ 作・絵 宇野和美 訳
徳間書店 1996 【Y18-11606】

2018年の国際アンデルセン賞作家賞の候補に選ばれた児童文学作家です。デビュー以来150点以上の作品を発表し、扱うジャンル、描くテーマ、対象とする読者層は多岐にわたります。コロンビアの都市メデジンに暮らす少年たちを描いた『雨あがりのメデジン』はスペイン国民児童文学賞を受賞しました。

アルフレッド・ゴメス＝セルダ



『雨あがりのメデジン』
アルフレッド・ゴメス＝セルダ 作 宇野和美 訳
鈴木出版 2011 【Y9-N12-J58】



ラジオの脚本を手がける中で生み出した男の子のキャラクター「マノリート」が人気を博しました。1994年に、マノリートを主人公にした物語『めがねっこマノリート』を刊行し、1998年にスペイン国民児童文学賞を受賞しました。映画の脚本家としても高い評価を得ています。

エルビラ・リンド



『めがねっこマノリート』
エルビラ・リンド 作 エミリオ・ウルベルアーガ 絵 とどろきしずか 訳
清水憲男 監修 小学館 2005 【Y9-N05-H256】

画家の祖父と父を持ち、広告業界での勤務を経て絵本家になりました。繊細でなめらかなタッチとやわらかな色遣い特徴です。2021年にブラチスラバ世界絵本原画展でグランプリを受賞し、国際アンデルセン賞画家賞の候補にも複数回選ばれています。

エレナ・オドリオソラ



『あくびばかりしていたおひめさま』
カルメン・ヒル文 エレナ・オドリオソラ 絵
宇野和美 訳 光村教育図書 2009【Y18-N09-J255】

大学と大学院で広告、映画、児童文学など幅広い分野を学び、絵本作家になりました。特に画家としての独創的な表現力と高い技術力が評価され、国内外で数々の賞を受賞しています。

『エイハブ船長と白いクジラ』は、ハーマン・メルヴィルの小説『白鯨』をもとにした作品です。

マヌエル・マルソル



『エイハブ船長と白いクジラ』
マヌエル・マルソル 作・絵 美馬しょうこ 訳
ワールドライブラリー 2016 【Y18-N16-L336】

中南米出身の作家・画家

中南米の子どもの本をめぐる状況

中南米で子どもを读者として意識した本を手がける出版社が登場し始めたのは1980年頃でした。それ以降、中南米の子どもたちが生きる社会をありのままに描いた作品が数多く出版されてきました。

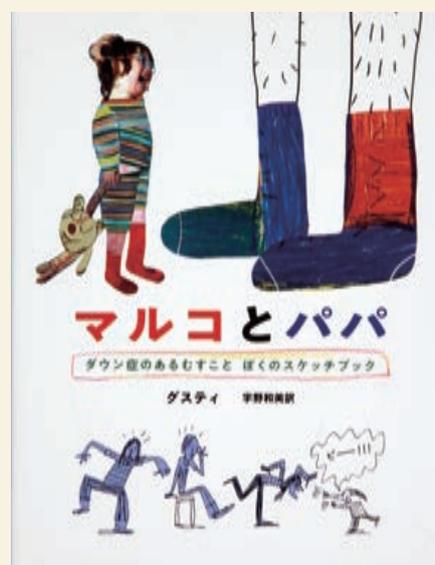
大半の国でスペイン語が話されている中南米では、国境を越えて活動する作家や画家が少なくありません。子どもの本の作り手たちは、スペイン語を介して連携し、互いに刺激し合って作品を生み出しているのです。



アルゼンチン

スペイン語圏で広く活躍する画家で、約20か国で作品が翻訳出版されています。多様な表現スタイルを持ち、1989年のブラチスラバ世界絵本原画展での金のりんご賞など、数々の受賞歴があります。2022年の国際アンデルセン賞画家賞の候補にも選ばれました。

グステイ



『マルコとパパ：ダウン症のあるむすことぼくのスケッチブック』グステイ作・絵 宇野和美 訳 偕成社 2018【Y1-N18-L60】



チリ

ジャーナリストとして活動するカタワラ、チリの軍事独裁政権下で亡くなった子どもたちに詩集を捧げるなど、作家としても活躍しています。『いっぽんのせんとマヌエル』は、線にこだわりを示す自閉症の少年マヌエルとの出会いを機に生まれた絵本です。

マリア・ホセ・フェラーダ



『いっぽんのせんとマヌエル』マリア・ホセ・フェラーダ 文 パトリシオ・メナ 絵 星野由美 訳 偕成社 2017【Y18-N17-L222】



コロンビア

コロンビアで法律と美術を学びながら新聞の風刺漫画を手がけ、その後アメリカで子どもの本に携わるようになりました。色鉛筆、木炭、コンピューター・グラフィックスなどを用いて絵を描いています。2016年の国際アンデルセン賞画家賞とリンドグリーン賞の候補に選ばれました。

クラウディア・ルエダ



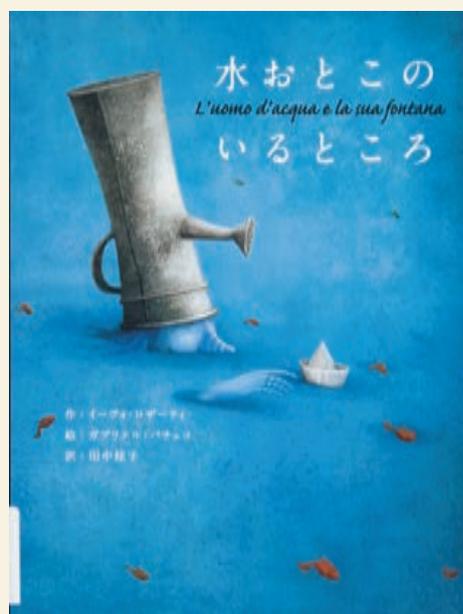
『やだよ』
クラウディア・ルエダ さく うのかずみ やく
西村書店 2013【Y18-N13-L48】



メキシコ

美術学校で舞台美術やデザインを学びました。シュルレアリスムを思わせる、不思議な印象を与える画風が特徴的です。『水おとこのいるところ』では、蛇口から生まれた心優しい水おとこの物語が、青を基調とする幻想的な色彩で表現されています。

ガブリエル・パチエコ



『水おとこのいるところ』
イーヴォ・ロザーティ 作 ガブリエル・パチエコ 絵
田中桂子 訳 岩崎書店 2009【Y18-N09-J303】



ペルー

ペルーの現代詩人で児童文学作家でもあったホセ・ワタナベと、画家である妻との間に生まれました。大学で美術を学んだのち、スペインのマヨルカ島に移住し、イラストレーターとして活動しました。その後ペルーに戻り、美術館で子ども向けの絵のワークショップも開催しています。

イッサ・ワタナベ



『いいこにして、マストドン!』
ミカエラ・チリフ文 イッサ・ワタナベ 絵 星野由美 訳
ワールドライブラリー 2015【Y18-N16-L40】



【本稿で紹介した以外の出展作家・画家】（展示会場での紹介順）

スペイン：アナ・マリア・マトゥーテ、フアン・ファリアス、コンチャ・ロペス＝ナルバエス、カルマ・スレ＝バンドレイ、ウリセス・ウエンセル、ジョルディ・シエラ・イ・ファブラ、ジョアン・マヌエル・ジズベルト、エリアセル・カンシーノ、ハビエル・サバラ、ラウラ・ガジェゴ＝ガルシア

アルゼンチン：マリア・クリスティーナ・ラモス、マリア・テレサ・アンドルエット、クラウディア・レニャッツィ、マリア・ウエレニケ、リリアナ・ボドック、ディエゴ・ピアンキ、イソール、リニエルスチリ：マルタ・カラスコ、アレハンドラ・アコスタ、パロマ・バルディビア

コロンビア：イバル・ダ・コル、ハイロ・ブイトラゴ

メキシコ：フランシスコ・イノホサ、トニョ・マルピカ、アレハンドロ・マガジャネス、フアン・パロミノ

ペルー：ホセ・ワタナベ

本展示会では、スペイン語圏の国々から選んだ約200点の資料を展示しています。ここにご紹介した以外にも、スペイン語圏における民話、スペイン語圏でも親しまれている世界の名作絵本、子どもたちを取り巻く社会問題を扱った本など、様々な切り口で選んだ本を取り上げます。

この機会に、スペイン語の子どもの本の魅力を感じてみてください。

国際子ども図書館へのお越しをお待ちしています。

関連講演

「スペインと中南米の子どもの本—この100年の変遷と今—」

（動画配信）

スペイン語翻訳家である宇野和美氏を講師にお迎えしました。スペイン語圏の子どもの本のこの100年の状況や、現在の出版事情、日本での翻訳や作品紹介の実情などについてお話しいただいた動画を、YouTubeの国立国会図書館公式チャンネルで公開します。

講師：宇野和美氏（スペイン語翻訳家）
配信期間：2022年9月30日（金）～12月25日（日）
URL：
<https://www.kodomo.go.jp/event/event/event2022-08.html>



©Kazuko Wakayama



国立国会図書館は国会に属する図書館ですが、行政府である府省庁や、司法府である最高裁判所にも国立国会図書館の支部図書館があるのをご存知でしょうか。支部図書館は、主にそれぞれの府省庁や裁判所の職員向けに図書館サービスを提供する一方で、「支部図書館制度」に基づいて国立国会図書館と様々なやりとりをしています。

例えば、支部図書館が窓口となつて、納本対象の官庁出版物を国立国会図書館に送付するなどです。また、支部図書館職員へのサポートの一環として、国立国会図書館では支部図書館職員向けの様々な研修を年に5回前後実施しています。研修では、目録の取り方や資料の取扱い方といった、図書館業務の基礎となる科目を開講しているほか、最近では資料デジタル化に関する科目なども実施しています。

支部図書館職員向けの研修は、昭和23（1948）年、当時国立国会図書館のあった赤坂離宮で「実務研修会」を実施したのが始まりです。かつては全国各種の図書館への調査研修を実施したこともあるなど、多様な変化を経ながら続

いてきました。そしてついに2年前には、オンラインで受けられる科目も登場しました。

私は新たに支部図書館職員になった方向けの研修の講師として、国立国会図書館の利用方法についての科目を担当しました。庁舎内に図書館があることは知っていたが、それが国立国会図書館の支部図書館であることは図書館に配属されるまで知らなかったという方も多いようです。数十分の講義ですべてを説明することはできませんが、研修内容は入念に練っています。そこで活きてくるのがいつも支部図書館職員の方から来るお問合せです。蔵書検索方法のレファレンスなどには、研修の演習などで使えるアイデアが多く隠れています。よりよい研修を作るため、常にアンテナを張っておくよう心がけています。

オンライン研修の開始や資料デジタル化に関する科目の開講など、「デジタルシフト」してきた支部図書館職員研修ですが、これからもさらに研修を効果的なものにできるよう、考え続けていきます。

（支部図書館・協力課サービス係 ムーミン）

支部図書館職員研修 への道のり

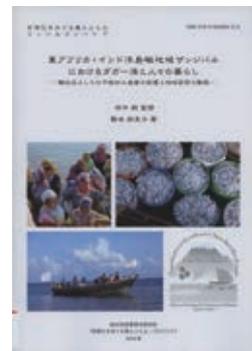


研修準備中の筆者

本屋に

ない

本



東アフリカ・インド洋島嶼地域ザンジバルにおけるダガー漁と人々の暮らし

輸出品としての干物加工産業の変遷と地域変容の動態

田中樹 監修, 藤本麻里子 著
総合地球環境学研究所「砂漠化をめぐる風と人と土」プロジェクト

2016.11 76p ; 30cm
<請求記号 DM621-L64>

この本は、タンザニア連合共和国の島嶼部、ザンジバルにおけるダガー漁業に関する報告書だ。ダガーとは、現地の言葉であるスワヒリ語で「小魚」の総称だ。日本の煮干しと同じく、多くの場合は乾燥した形で流通している。タンザニアで盛んに漁獲されているのは淡水湖の小魚だが、この本で主に研究されているのはザンジバル島周辺で獲れる海の小魚であり、その点も煮干しに類似している。著者はタンザニアでのチンパンジー調査中にダガーに出会い、親近感を覚えたことから、やがてダガー自体を通じて地域研究を行うようになった研究者だ。

煮干しと同様、ザンジバルのダガーも魚種はさまざまだ。最も一般的なものは daga tonge と呼ばれるカタクチイワシ科の魚だが、それ以外にも多くの魚種が挙げられており、現地での地域によって異なったりもする（呼び名と生物学上の学名が併記されている貴重な本だ。多くの種類のカラー写真も掲載されているが、daga buniu という種類はフグのような見た目で、食べて大丈夫なのか少し心配になってしま

う。さらにこの本では、漁獲の部分だけではなく、加工や仲買、国際的な販売ルートまでを調査している。加工や仲買は、漁そのものと同じくザンジバルで行われるが、その部分だけではなく、ダガーが売られてゆくはるか内陸のコンゴ民主共和国まで調査を進めている。ダガーは小魚ではあるが、大量に漁獲され、外国まで運ばれて、海沿いから内陸まで多くの人々の生活を支えているのだ。コンゴではダガーの頭は好まれないので頭を取って輸出していること、コンゴの人々はザンジバルの tonge をアラブの領域から来た魚とみなして「アブダビ」と呼ぶことなど、細かな事実も面白い。

ちなみに、私は当館入館前に青年海外協力隊員としてタンザニアで活動していたことがあるが、その折も、ダガーをトマトソースで煮込んだ料理の旨味はどことなく日本食にも通じ、懐かしく感じた。私の住んでいたタンザニアの大陸部では、例の daga tonge を daga mchale (米粒のようなダガー) と呼ぶ……ということも、ちゃんとこの本でも書かれている。

ザンジバル住民の仕事を生み出し、内陸の国まで食料をもたらすなど、多面的な役割をもっているダガー漁業だが、グローバル化や行政の介入など、それを取り巻く環境は単純ではない。ダガーは煮干しに似ているが、この本の終章では、日本の漁業協同組合が漁業者の利害調整や卸売販売などを行っている点が、組合が未整備なザンジバルの参考になるのではとも述べられている。島国日本の視点を生かした研究が、ダガー漁業のさらなる発展の一助となることを期待したい。

(宇野亮)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

企画展示「知識を世界に求めて―明治維新前後の翻訳事情―」

国立国会図書館東京本館展示室において、11月11日（金）から12月9日（金）まで、「翻訳」をテーマとした展示会を開催します。

江戸時代後期から明治時代前期の翻訳事情に焦点を当て、国立国会図書館が所蔵する中国や西洋諸国の原書及びその翻訳書、約200点を展示します。江戸時代にオランダから渡ってきた蘭書とその翻訳や、明治時代にベストセラーとなった翻訳書、今日でも親しまれている海外文学の翻訳書等、さまざまな分野の翻訳書が一堂に会します。

また、当時の翻訳事情や翻訳者のエピソードもあわせてご紹介いたします。
どなたでも無料でご覧いただけます。是非お越しください。

- 会場 国立国会図書館東京本館展示室（新館1階）
- 会期 令和4年11月11日（金）から12月9日（金）まで
- ※日曜、祝日及び11月16日（水・資料整理休館日）を除く。
- 開催時間 10時～19時（土曜日は10時～18時）

企画展示関連講演会

企画展示の開催に関連し、11月12日（土）にオンライン形式で講演会を開催します。

- 日時 令和4年11月12日（土）13時30分～15時（その後30分程度、質疑応答を予定）
- 演題 翻訳学の視座から読む明治の文学翻訳者の言説―なぜ、いかにして訳すのか―
- 講師 齊藤美野氏（順天堂大学国際教養学部准教授）
- 募集人数 300名程度（申込み先着順）
- 申込方法 ホームページのイベントページからリンクする申込フォームからお申込みください。
<https://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/exhibition2022.html>



国立国会図書館関西館開館20周年記念講演・シンポジウム

国立国会図書館関西館は、今年で開館20周年を迎えました。これを記念して有識者による講演・シンポジウムを開催します。参加無料です。ぜひご参加ください。

- 日時 12月8日（木）13時15分～16時35分
- 開催方法 オンライン開催（Cisco Webex Webinars使用）
- プログラムと登壇者
- 【講演】
- 「コミュニケーションの進化と図書館の未来」
山極壽一氏（総合地球環境学研究所所長）
- 【シンポジウム】
- 「これからの図書館 ―読書はどのように変わる？デジタルでどう変わる？―」
パネリスト

- 池内淳氏（筑波大学図書館情報メディア系准教授）
- 小林隆志氏（鳥取県立図書館長）
- 村上泰子氏（関西大学文学部教授）
- 辰巳公一（国立国会図書館関西館電子図書館課長）
- ・モデレーター
- 原田隆史氏（同志社大学免許資格課程センター教授・同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）
- 申込方法 ホームページ「イベント・展示会情報」に開設する申込ページからお申し込みください。定員（900名）に達した時点で受付を終了します。
- 問合せ先 国立国会図書館関西館総務課総務係
電話 0774（98）12224



第15回科学技術情報整備審議会

8月24日、第15回科学技術情報整備審議会がオンラインで開催され、審議会委員13名のほか、館長、副館長、幹事等職員18名が出席しました。委員の互選により安浦寛人委員が委員長に選任されました。続いて、安浦委員長が竹内比呂也委員を委員長代理に指名しました。

当館から「第五期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画」における「利活用促進のための取組」と「恒久的保存のための取組」の進捗について報告しました。その後、計画の進捗や関連する当館の取組について、各委員から感想や意見が述べられました。主な内容は次のとおりです。

- ・資料デジタル化やテキスト化、個人向けデジタル化資料送信サービスの開始など、計画の大きな進捗が確認できた。
- ・広く国民にとって信頼できる情報源として機能していくために、有償等オンライン資料の収集や、各地の図書館が所蔵する国立国会図書館未収資料のデータ収集に期待したい。
- ・関係機関とも協力し、メタデータ流通ガイドラインの整備、権利処理に関するノウハウの共有、デジタル化資料の利活用に向けた啓発活動も進めてもらいたい。

科学技術情報整備審議会委員名簿

(五十音順 敬称略) (令和4年8月24日現在)

委員長

安浦 寛人

九州大学名誉教授／福岡アジア都市研究所理事長

委員長代理

竹内 比呂也

千葉大学副学長

委員

浅川 智恵子

日本科学未来館館長

大隅 典子

東北大学副学長、附属図書館長、大学院医学系研究科教授

喜連川 優

情報・システム研究機構国立情報学研究所長／東京大学特別教授

小口 正範

日本原子力研究開発機構理事

坂本 修一

文部科学省大臣官房審議官(研究振興局及び高等教育政策連携担当)

佐藤 義則

東北学院大学文学部教授

戸山 芳昭

国際医学情報センター理事長

橋本 和仁

科学技術振興機構理事

藤垣 裕子

東京大学理事・副学長、大学院総合文化研究科・教養学部教授

村山 泰啓

情報通信研究機構NICTナレッジハブ・研究統括、ナレッジハブ長

渡部 泰明

人間文化研究機構国文学研究資料館長

*審議会に関する情報は、左記に掲載しています。

ホーム▽事業紹介▽資料の収集▽科学技術情報整備▽科学技術情報整備審議会

<https://www.ndl.go.jp/jp/collect/tech/council/index.html>



32

東京本館 新館1階階段付近
(2016年8月)

NDL Topics

新刊案内

令和3年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録
「今を生きるヤングアダルトへ」

「ほんとうの世界へ」文学の魅力と、人生に役立つ読書法

現代社会を生きぬく「ヤングアダルト文学は何をどう映し出す？」

ヤングアダルト文学の後先

日本の翻訳ヤングアダルト文学の現在
児童書に関するレファレンスサービス



A4 126頁 年刊 1,980円(税込)
発売 日本図書館協会
ISBN 978-4-87582-899-0

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第293号

△特集：動物保護▽

サーカスにおける野生動物の使用を禁止するイギリスの法律

フランスにおける動物保護に関する法律の改正
諸外国の憲法における動物保護規定



A4 65頁 季刊 1,980円(税込)
ISBN 978-4-87582-901-0
発売 日本図書館協会

レファレンス 860号

我が国における起業家教育をめぐる動向と論点
カップル法制の諸構想―婚姻制度・登録パートナーシップ制度・「事実婚」―

主要国の財政ルールの動向と論点―基礎的財政収支の黒字化目標に関連して―

気候変動国際枠組みの展開とCOP26



A4 108頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

レファレンス 861号

PF1事業及びその推進のための施策の状況―PF1法平成23年改正後の状況を中心として―

ドイツにおける感染症対策のための行動制限の法的根拠―行政法の法規命令と議会の関与―

フィンランド議会における違憲審査―基本法委員会
の組織と機能―(短報)

ロシアのウクライナ侵攻による人道上の被害―G7及びその他の諸国、国連総会、国際機関やNGOの対応と評価―(資料)



A4 99頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

カレントアウェアネス 353号

関西館の20年…この10年の動きを中心に
再現性・複製可能性と研究図書館

サービス案内としての大学図書館バーチャルツアー
動向レビュー▽

日本国内でのレファレンスツールの電子化動向
「完全参加と平等」から「合理的配慮」へ―聴覚障害者サービスの動向―



A4 24頁 季刊 440円(税込)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

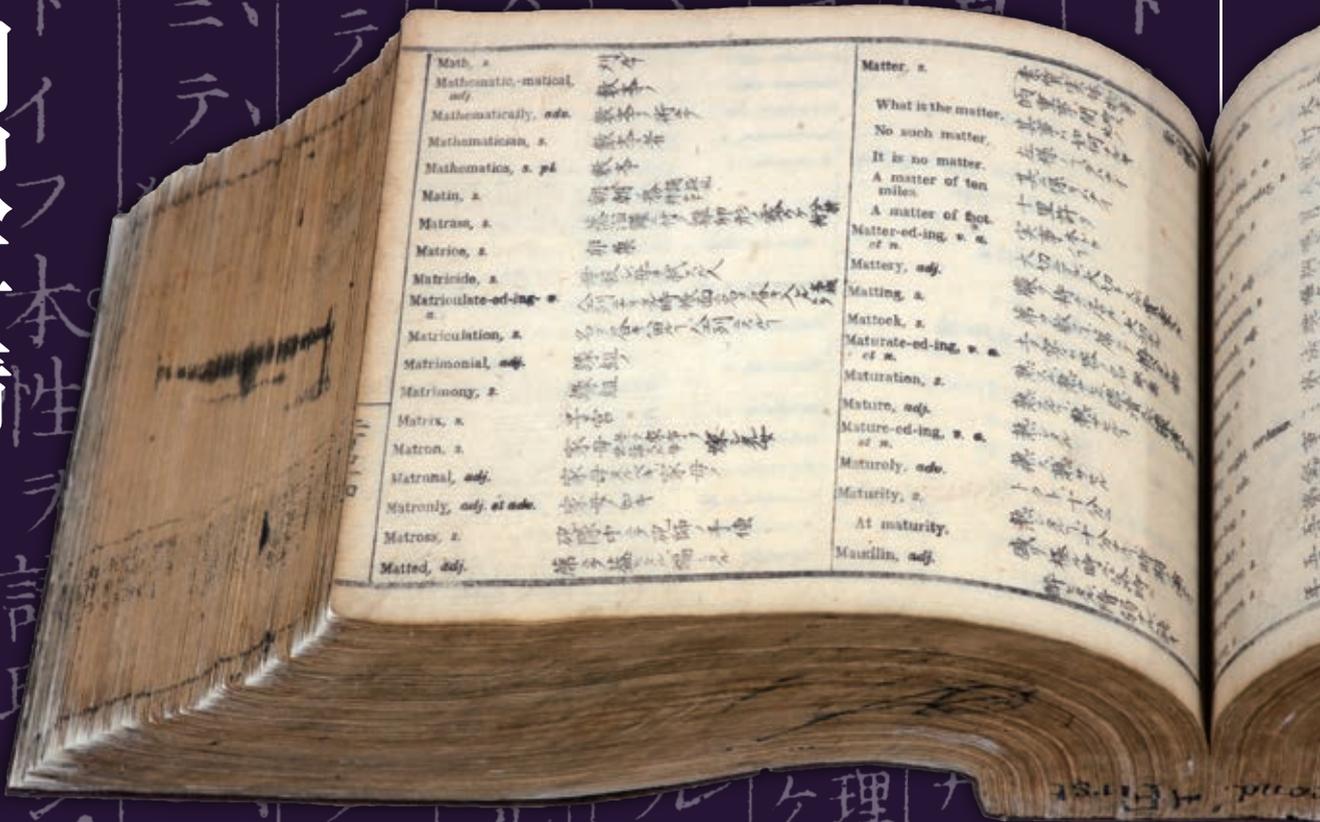
日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812

企画展示

知識を 世界に 求めて

明治維新前後の
翻訳事情



会期

令和4年 11月11日(金)~12月9日(金)

10:00~19:00 (土曜日は18:00まで) ※日曜日、祝日、11月16日(水・資料整理休館日)を除く

会場

国立国会図書館東京本館 新館1階展示室

入場
無料

※開催状況に変更がある場合は、国立国会図書館ホームページ、公式Twitter、Facebook 等でお知らせします。
<https://www.ndl.go.jp/jp/event/exhibitions/exhibition2022.html>



11

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.11

NO.739

NOVEMBER
2022

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Hyakuchozu: Daimyo Sessai's preeminent skill as an artist
- 06 Materials newly available in the Modern Japanese Political History
Materials Room
- 15 Creating a new way to search collections: Digitizing books at the NDL using
OCR
- 20 Children's Books in Spanish from Spain and Latin America
- 27 <Tidbits of information on NDL>
The history and the future of librarianship training at NDL branch libraries in the executive and judicial
branches of government
- 28 <Books not commercially available>
Higashiafurika · indoyo tosho chiiki zanjibaru ni okeru daga ryo to hitobito no kurashi
- 29 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和4年11月号 (No.739)

令和4年11月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 松浦茂

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.11

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士